

# 本部長定例記者会見

---

第十一管区海上保安本部

令和6年9月26日

# マリンレジャー活動に伴う海難発生状況

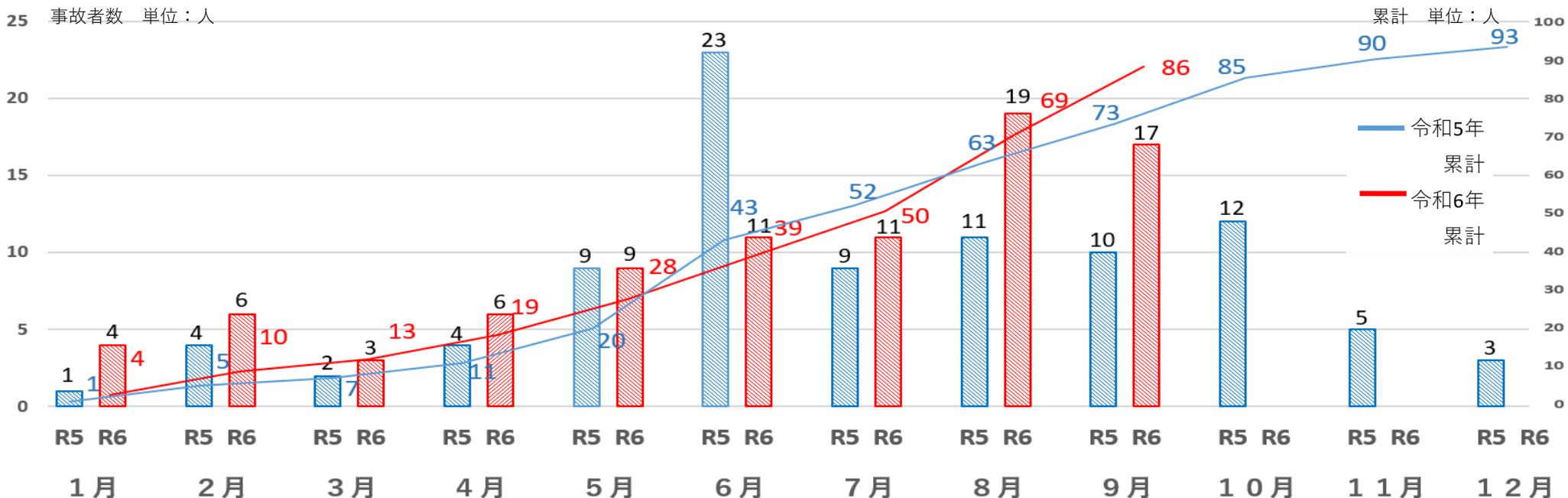
---

# マリンレジャー活動に伴う海難発生状況 (速報値)

## 1. 8月28日～9月25日

<b>船舶事故 3隻</b> 前年比±0隻	モーターボート 1隻 水上オートバイ 1隻 カヌー 1隻	死者・行方不明者 0人 負傷 0人
<b>人身事故 22人</b> 県民 2人 観光客 12人 外国人 8人 前年比+12人	スノーケリング中 11人 (1人) 遊泳中 6人 (1人) ダイビング中 2人 トーイング遊具中 2人 釣り中 1人 死者・行方不明者数を内数表示	死者・行方不明者 2人 負傷 3人

## 2. 1月1日～9月25日までの人身事故発生状況



# 沖縄県内における釣り中の事故について(R1~R5)

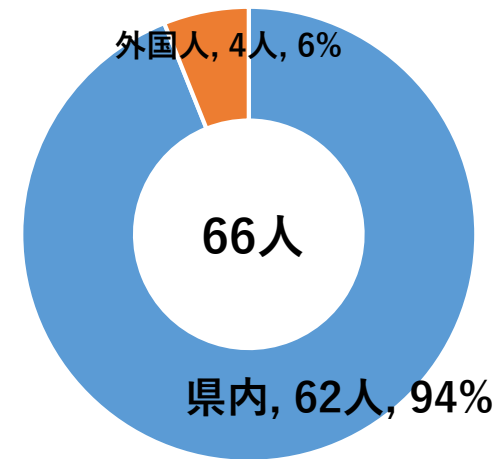
## 釣り中の人身事故発生状況

- 過去5年間に於ける釣り中の事故者数は66人で、そのうち死者数は**20人(約30%)**であった。
- 釣り中の事故のうち、そのほとんどが**沖縄県在住者**であり、**季節を問わず発生**している。
- 死者は全て**ライフジャケット非着用であった。**

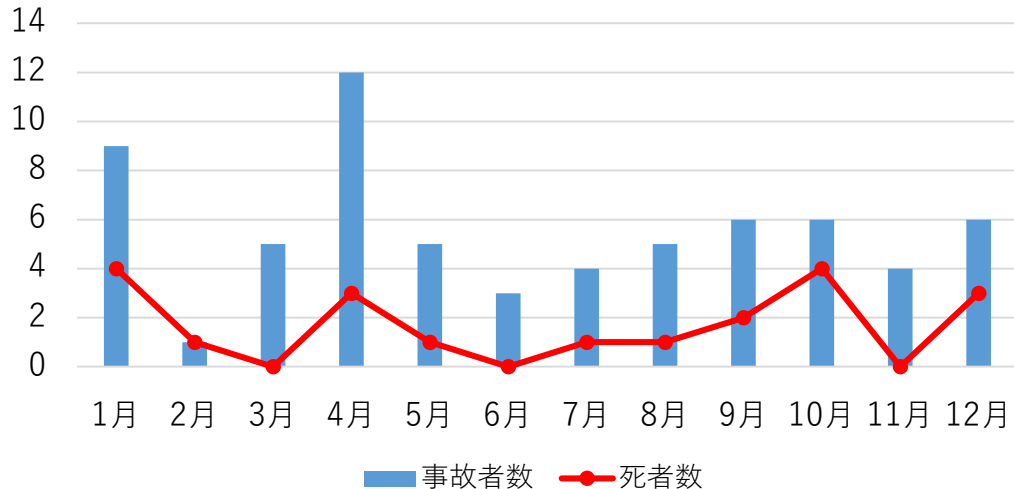
事故発生状況(R1~R5)

	事故者数	死者数
R1	16人	8人
R2	24人	4人
R3	9人	3人
R4	13人	2人
R5	4人	3人
合計	66人	20人

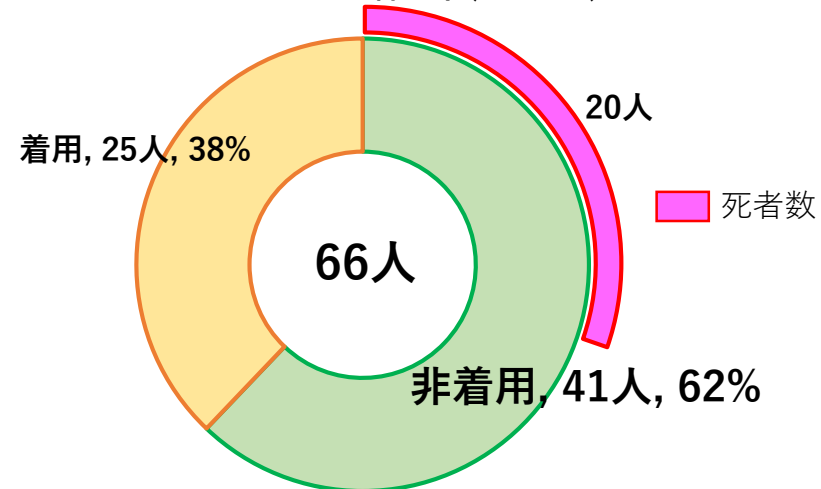
居住地別事故発生状況(R1~R5)



月別事故発生状況 (R1~R5)



ライフジャケット着用率(R1~R5)



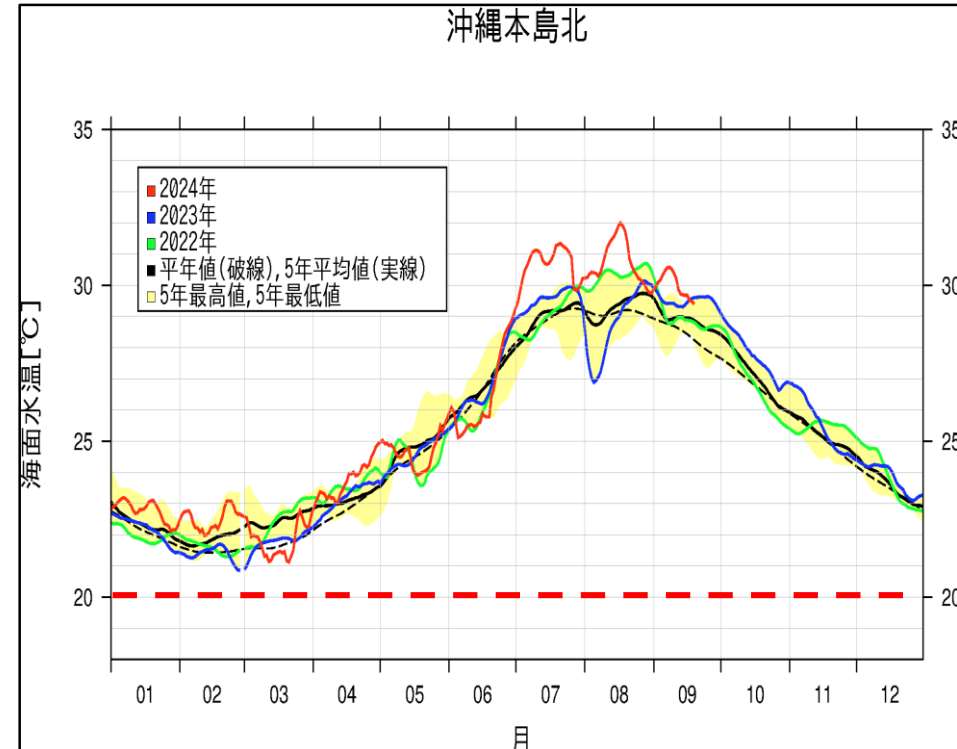


下の表は、海水温度と生存予想時間を表したものです。  
 温度の低い海水に身体が長く浸かっていると「**低体温症※**」になります。  
 年間を通じて、海水温度が高い沖縄県では、万一の場合でも**浮力を確保**していれば助かる可能性が高くなります。

※ 低体温症とは、体温が35度以下になる状態で、次第に動作が鈍く緩慢になり、中度では意識が混濁して、正しい応答が得られなくなります。その後は、意識が無くなり、浮いていられなくなることがあります。

海水温度	生存予想時間
10℃未満	3時間以下 (海水温度が下がると生存予想時間も短くなります。)
10℃~15℃	6時間以下
15℃~20℃	12時間以下
<u>20℃~25℃</u>	<u>不定</u> <u>(疲労による)</u>

【IMO船舶捜索救助便覧より】



【気象庁HPより】

# 救命胴衣の種類

## 固型式救命胴衣



## 膨張式救命胴衣

### 首掛け



### 腰まき



## 膨張式救命胴衣の仕組み



- ① ガスボンベ
- ② 自動膨張装置
- ③ 水入口
- ④ カートリッジ



カートリッジの水入口から水が浸入し、カートリッジ内の感知素子が水を感知するとバネが伸び、その先にある自動膨張装置の針を押し上げ、ボンベに穴を開けガスが放出する仕組みになっています。



また、カートリッジにて水を感じたか確認ができます。



カートリッジにボンベの交換時期が刻印されています。



作動させたか確認が可能です。



特殊な和紙で水を感じ